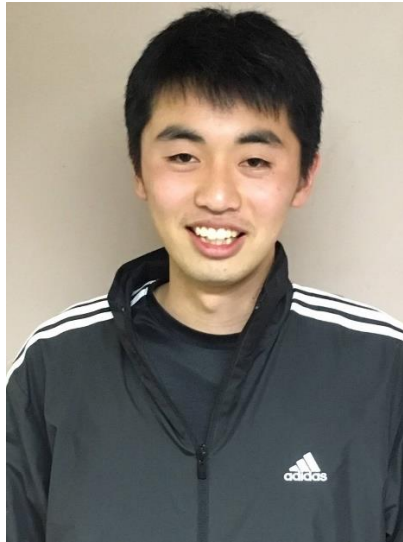


～ ユース研修 OB,OG の今 ～

ユース研修 OB/OG を求めて第 2 回は昨年 2 級審判員に昇級され、今年から関東強化審判員となります亀井環さんです。全日本少年サッカー大会に審判員として参加、現役大学生でユース研修を卒業して間もない亀井さんのお話は若手審判員の皆様と近い感覚があると思います！



皆さんはじめまして、亀井環と申します。名前をよく読み間違えられますが「カン」と読みます。現在船橋市に住んでいます。この 4 月から大学 4 年生になります。

Q.まずは 2 級審判員昇級おめでとうございます！千葉大学に通っていると伺いましたが専攻はなんですか？

A.ありがとうございます。大学では教育学部小学校教員養成課程国語科選修というところに所属しています。専攻は国語学という主に日本語文法について研究する分野です。

Q.審判員を始めたキッカケはなんですか？

A.小学校を卒業する時になんだかよくわからないまま資格を取りに行きました。中学校からは練習試合などで副審をやるようになり興味を持ったのだと思います。

Q.亀井さんが参加したユース研修はいつですか。

A.2012 年から 16 年まで計 5 回参加させて頂きました。最初に参加した時には 2 級の友成さんなどが当時 3 級として参加されていたと記憶しています。研修では、3 種(U-15)の試合を用いた実技、競技規則改正や審判員に関する講義、1 種選手権(現天皇杯千葉県選手権)の決勝戦を用いた観戦研修など様々な事をさせて頂きました。

Q.具体的な研修内容を教えてください。主審の割り当てもあったのですか。

A.実技では、参加者同士で審判団となり、インストラクターの方にもついて頂き、試合前の打ち合わせから、試合後のフィードバックまでを行いました。主審の割り当ては 2 回目に参加したときから頂いていたと思います。競技規則テストが大事だとか…。

Q.初めて研修会に参加する、あるいは試合自体に初めて割り当てられる場合はかなり緊張もありますよね…

A.初めての時は何が何だかわからず、普段自分がプレーするときに見ていたものをそのまま真似てやっていたと思います。ただ、やっぱり自分では判断できない事が起きたりして呆然としていた記憶があります。

先輩の参加者の方にもアドバイスを頂く事ができたので乗り切れたのだと思います。

Q.5 回はかなり多い参加回数かと思いますが。どうして何度も参加してみようと思ったのですか。

A.1 回目に参加したときに、審判という世界について知れた事が大きかったと思います。今まで近くにいたはずなのに知らなかった審判や競技規則について興味を持てるようになりました。サッカーにはこんな一面もあるんだな…と。また、全日本少年サッカー大会への参加や、2 級昇級という目標にむけて、自身のレベルアップが図れる数



少ない場所でもありました。インストラクターの方に見て頂き、アドバイスを頂ける機会は今でも少ないので。

Q.最初はやはり誰かに見て教えて欲しいけれど機会がない、かと言って参加にも踏み出せない人も多いと思います。亀井さん自身最初はどのような流れで参加したのですか。

A.最初は親に「せっかく資格を持っているんだから試しに行ってみたら」と言われたからです。僕自身は割と軽い気持ちで参加してしまいましたが、参加したからこそこまで来る事ができました。もし機会がないという方や参加する事に不安があると見送っている方はぜひ参加するべきだと思います。

Q.5回の参加のうち特に印象に残っている出来事はなんですか。

A.確か初めて参加した時に、当時国際審判員だった五十嵐さんが副審に入られていました。当時は全然知らなかったので「ワッペンも違うし、この人はなんだろう」と思っていました。今思うとすごい事だったなど。ただ、当時一緒に研修に参加していたのに最近会っていない人が多いのは少し残念です。ぜひグラウンドで会いましょう！

Q.おっしゃる様に仕事などの関係で審判やサッカーから離れてしまう人が一定数いるのは事実です。進路の岐路に立っている亀井さんだからこそ意識していることはありますか。

A.今はまだ大学生なので土日が休みですし、アルバイト先も審判を優先する事を理解してくれています。ただ、この先就職したらどうなるのか(就職できるのか)については、やはり不安があります。今後も審判活動を続けていける様に土日が休みの職場に入れればなどは思っていますし、そうできるよう努力はしていくつもりです。

Q.全日本少年サッカー大会にはいつ、どのような経緯で参加したのですか？

A.高校2年の夏休みに参加させて頂きました。ユース研修や勉強会などに参加させて頂く中で、県協会の方に推薦して頂き参加できました。本大会は8人制1人審判が採用されていたので、そのトレーニングをたくさん行ったと思います。約一週間の日程で、競技規則や審判に関する事だけでなく、現代サッカーで競技者に求められる事や人生設計についてなど幅広いことを学ばせて頂きました。

2級の久保田さんは当時北海道から参加していて、高校卒業と同時に千葉に引っ越してきたと聞いてびっくりしました。他にも関東の方とは割り当てで会ったりしています。

Q.全国に仲間がいる事も審判の醍醐味ですね。千葉には現在3,500名を超えるユース審判の仲間達があります。亀井さんは目標の1人になるかと思えます。メッセージをお願いします！また2019年の亀井さんの目標を教えてください。

A.選手の立場からすると審判はどうしても「めんどくさいもの」や「文句を言われるもの」という印象があるかもしれませんが、でも、審判には審判の面白い部分があります。もしちょっとでも興味があったり、逆に「文句を言われたいようにしたい！」と思ったりしたら、ぜひユース研修に参加してみてください。

僕にとって2019年は本格的に2級審判員としての活動が始まる年でもあり、就活などこれからの人生について大事な年でもあります。まずは審判を続けていける環境を整えたいと思います。その上で自身のレベルアップを図りたいと思います。

亀井さんも参加したユース宿泊研修は夏休みに開催されますので追ってご連絡します。また毎月第3日曜日には若手審判を対象にしたユース勉強会を開催しています。

お問い合わせはこちらまで。

育成部/U-18担当 清水 賢一郎(しみず けんいちろう)

TEL : 080-3170-3250、

e-mail : shimizu@CFA.jpn.org

